

# ビジネス微分積分のひとくちメモ

## 『ニュートンが活躍した頃の日本は？』



ヨーロッパでは17世紀に微分積分学が確立されましたが、その頃日本ではどんな時代だったのでしょうか？

1684年ライプニッツが『微分積分の論文』を発表した5年後の1689年、松尾芭蕉が奥の細道の旅に出ており、さらにその3年後、1702年に忠臣蔵でおなじみの赤穂浪士が討ち入りで江戸っ子をびっくりさせました。1704年ニュートン『求積論』で微分積分の成果を発表。時は徳川5代将軍・徳川綱吉の元禄時代であります。ちょんまげを結って元禄文化を謳歌している時代に、欧州では微分積分が確立され、数学の歴史に多大なる貢献をしているわけです。

会計で使用する『複式簿記』は、15世紀にイタリアのルカパッチョリが発明されたとされており、この微分積分を含めて欧州との学問の差の大きさに唖然とされます。

